

校内研研修計画

甲州市立大和小学校

1 学校課題

大和地区は自然に恵まれており、周囲を山に囲まれた静かな地域である。地域の中央を高速道路が走り、幹線道路も交通量が増加し春や秋など観光客が多数訪れ、賑わいを見せる。大和町は武田家終焉の地としても知られており、多くの史跡が点在する古い歴史を持つ町である。

本校は、児童数が少ないため人間関係も固定されがちであり、多様な意見や価値観に触れる機会が少ない。決まったことや指示されたことに一生懸命に取り組むことはできるものの受け身になりがちで、自ら考え、主体的に取り組もうとする姿勢は十分だとは言えない。また、学校を離れ地域に帰ると、同年代がほとんどいない状態となる児童も多い。そのためか、人との関わり方や円滑なコミュニケーションがとれない児童も見られる。そこで、様々な機会を捉え、児童会の集会活動での縦割り活動や低中高学年の合同体育などの交流を通して、人間関係を築く能力や社会性を育み、異年齢集団の中で共に助け合うことができる環境作りを進めている。

2 研究主題

「学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成」

～ 地域を学び 地域に学び 地域と学ぶ 授業の創造を通して ～

3 主題設定の理由

新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、①思考力・判断力・表現力等の育成②主体的に学習に取り組む態度の育成③言語活動など学習の基盤の育成が求められている。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、思考力・判断力・表現力の育成を目指すとともに、児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が促されるよう工夫することや、各教科等の指導において、どのように言語活動の充実を図るかが課題である。

本校では、昨年度、自分の意見を相手にわかりやすく説明すること、話し合い活動の中で意見の類似点や相違点に気づき、意見をまとめたり深めたりする学びあう活動を中心に研究を行った。ペアやグループ等を取り入れた学習形態の工夫、ワークシートやホワイトボードの活用、話し合いのルールの提示等、様々な手立てを工夫し実践してきたことで児童同士の学び合いが進み、自身の考えを深めることができるようになってきた。

また、「コミュニティ・スクール導入等促進事業」の指定を受け、学習会を通してコミュニティ・スクールの理解を深めるとともに、学校や地域の実態把握、地域学習の整理、6年間を通した系統性等について研究を進めてきた。

そこで今年度は、昨年度の研究を継続するとともに、地域学習の単元開発と授業の実践を中心に研究をすすめていく。自分の意見を相手にわかりやすく説明すること、話し合い活動の中で学び合う活動を基盤にしながら、地域学習を通して「学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成」につなげたい。

また、お互いを認め合い意欲的に学びあえる学習集団をつくるための2回のQ-Uアンケートの実施と結果分析、学習規律の定着をみるためのアンケートも継続して行っていくとともに、家庭と連携した学習環境づくりも進めていきたい。

3 研究の具体的内容与方法

【研究①】生活科・総合的な時間の学習を中心とした地域学習の単元構想計画・授業づくり

具体的な内容 と方法	ア 地域学習の単元構想計画の作成および授業案づくり イ 研究授業及び研究会 ウ 一人一実践授業
変容の見取り	授業観察, 学習ノート等の記録, 学習感想

【研究②】意欲的に学ぶ学習集団づくり

具体的な内容 と方法	ア 大和小学習のきまりの定着 イ Q-U調査の分析, 対策 (K-13法)
変容の見取り	児童観察, 「大和小学習のきまり」アンケート, Q-Uの結果

【研究③】家庭と連携した学習環境づくり

具体的な内容 と方法	ア 大和小自主学習の取り組み イ 自学に関するアンケートの実施 (自主学習の回数・方法・内容など)
変容の見取り	自主学習に関するアンケート, 児童の感想等

年間校内研修計画

研究主任 廣瀬 尚子

研究テーマ	研修内容	教科	担当	学年	授業時期	T・C 要請
学び合い高め合い 意欲的に学ぶ 児童の育成 ～地域を学び 地域に学び 地域と学ぶ 授業の創造を 通して ～	今年度の研究計画		研主・部長		4月	
	部会の提案		部長		5月	
	K-13法				5月	
	地域学習の単元構想 計画の作成		研究主任		5月 ～6月	
	Q-U調査の分析		研究主任		6月	
	伝え合い交流するた めの手立て		研究主任		7月	
	保小の連携 (大和保 育所の視察)		研主・部長		7月	
	教育課程還流報告 会・部会研究		各担当		8月	
	2学期の部会研究		部長		9月	
	研究授業・研究会	未定	鈴木奈津美	1年	10月	○
	K-13法		研究主任		11月	
	一人一実践	未定	授業者	各学年	9月～11月	
	研究のまとめ		研究主任		12月	
	本年度の成果と課題		研究主任		1月	
	来年度の研究について		研究主任		2月	
	研究紀要作成				3月	

